



平成27年10月1日発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

高松協同病院 北原孝夫新院長からの挨拶



2015年8月1日より、前院長の田中眞治医師に変わり高松協同病院院長に就任いたしました北原孝夫です。

当院は2002年の開院以来、リハビリ分野を中心に急性期病院をはじめとする医療機関、介護及び福祉施設等の関係者の皆様とも連携させていただきながら、地域住民の方々にも支えられ発展してまいりました。この間、脳卒中や神経疾患、外傷後の後遺症、関節や脊髄の障害等を持つ様々な患者様を病棟や外来で受け入れ、その方々がご自宅や住み慣れた地域の中で生き生きと暮らし続けられるよう精一杯の治療や支援を続けてきています。また当院は本年4月にWHOが推奨する国際ネットワークである「Health promoting hospitals & Health Services」(健康増進活動拠点病院及びヘルスサービス)に加盟することができ、住民自らが参加して地域全体の健康づくり、まちづくりを目指す魅力ある活動をますます

広げていきたいと考えております。

いよいよ到来する地域包括ケア時代に向けて、回復期リハビリ病棟の他、外来診療、外来リハビリ、通所リハビリ、通所介護、訪問診療、訪問リハビリ等当院で実践しているあらゆる分野において地域での役割が高まっていくと予想され、またその責任も大きくなると感じています。もちろん近年の医療・介護・福祉等をとりまく社会保障制度や地域社会の激しい変化の中で多くの困難もあり、すべての患者様及びそのご家族に全面的に満足していただける生活の継続やサービス提供ができていないわけではないことも事実であります。

あらためてそのことも肝に銘じつつ、今後はこれまでもまして地域の他の医療機関、介護・福祉施設の方々にもご協力いただきながら、地域住民のみなさまのために当院での医療及び介護・福祉等に関連した活動のさらなる発展に向けて努力を重ねていく決意です。まだまだ若輩者ではありますが、これからも何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

田中先生
からの挨拶

回復期の医療担当から在宅医療担当に転任しました。

ある日突然脳卒中や骨折などの急な病気に襲われて、市内の大病院に入院。1ヶ月くらいで病状が落ち着いたところで私たちの回復期リハビリ病院に転医し、在宅で日常生活が自立して送ることができるようリハビリをはじめ。約3ヶ月後には退院し、その後は通院したり、介護保険を使ってリハビリをして引き続き脳機能や日常生活能力が低下しないように医療や介護の従事者が支援していく。

このような医療や介護のスタイルが高松にも一定定着してきた。高松協同病院は開設以来一貫してリハビリの力を大いに発揮し、急性期から在宅への橋渡し役、障害を持った患者さんの自立支援に大いに役立ってきた。

ところが、リハビリを受けることもなく施設や在宅で介護を受けながら生活することを余儀なくされる人、これまで家族に付き添われて通院していたが次第に体が弱り通院が困難になる人、そもそも誰からも支援が受けられず自宅で引きこもり状態の高齢者一人暮らし、認知症の夫婦世帯が私たちの関わっている地域でも増加してきた。

さらに今後の予想として高松市の75歳以上の人口がこれから10年の間に1.5倍になり、8万人になる。なかでも一人暮らしや老老世帯、認知症のひとが爆発的に増えるとのこと。つまり、病院に通院できないひと、医療や介護のサービスを自分で適切に選択できないひとが地域に溢れてくるということだ。患者さんの生活の場に訪問する医療や看護、リハビリ、生活支援が今以上に量的にも質的にも整備されなければならない。

以上が私の現在の現状認識であり、今後の展望です。というわけで8月に院長を退任した後は在宅医療を担当して患者さんの生活の場に医療や介護を「出前」する仕事を始めています。

院長在任中は地域の医療機関、介護の事業所、医療生協役職員のみなさんには大変お世話になりました。在宅医療の分野で新しく仕事を始めます。引き続き在宅分野との連携をよろしく御願いたします。



高松協同病院 田中眞治

第24回平和祈願灯ろう流しで思いをきっちりひきつぐことができました

8月22日(土)夕、新川河川敷におきまして約70名の参加者を集め開催されました。

一昨年・昨年は雨天のため残念ながら開催できなかったため、みんなが「今年こそはできるかな」と不安でいっぱいでしたが、当日は暑さも一時のピークを越え、河畔特有の心地よい風が時折吹く絶好のイベント日和に恵まれ3年分の思いを込めた過去最多の210基の灯ろうが気持ちよさそうにゆらゆらと川面を照らしながら流れました。

今年は戦後70年の節目の年です。戦争体験者の方々は明らかに年齢を重ね、体調を崩したりと参加したくてもできない方が増えてきています。私が参加するようになった約10年くらい前から比べても模擬店や一般参加者の数が減り、企画・運営する側の方たちも少なくなってきているように感じます。日本社会全体の縮図のようにこのような小さな集まりの中でも「戦争の風化」が確実に進行しているを感じずにはいられません。

小学生2人のお母さんでもあるAさんはバザー準備をした後、自宅までお子さんを迎えにかえり、最後の灯ろうをわたすことができました。「まにあった」というお母さんの笑顔とお子さんの「灯ろう流しに参加した」という事を成しとげた時の充実した笑顔がとてもすてきでした。思いをうけつぎ、つなぐことができた瞬間ともなりました。

絶対に戦争のことは忘れない、忘れさせないように戦争を体験していない世代の私たちがしっかり受け継いでいかななくてはならないと強く感じました。



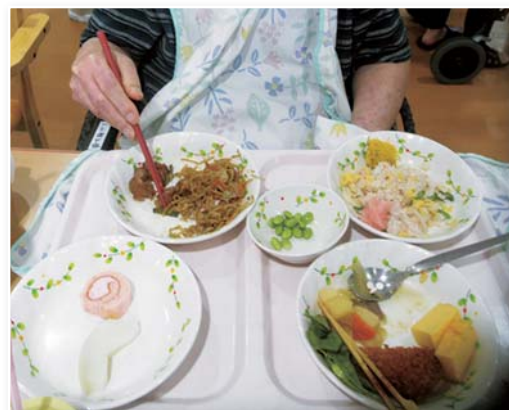
2015年残暑祭りを楽しみました

お盆も過ぎ、朝晩も過ごしやすくなってきた8月29日に病棟残暑祭りを開催しました。

普段は色々制限の多い病院食ですが、当日の昼食はバイキング形式で、焼きそばやちらし寿司、ロールケーキなど多くの種類が並びました。患者様は好きな種類のご飯をお皿に取り、みなさん思い思いの食事をおいしそうに召し上がっていました。中にはおかわりをする方もおられました。

午後からはヨーヨー釣りや的当てなどのゲームや、たこ焼き・フライドポテトなどの販売が始まりました。患者様のご家族もたくさん来られゲーム、販売ともに大変盛況をいただき、食べ物類は1時間もしないうちに完売してしまいました。並んでくださった方々に食べていただけなかったのは非常に申し訳ない思いでしたが、幸運にも購入できた方の「おいしい」と言って食べてくださる笑顔を見て、私たちもとても嬉しく感じました。お祭りの後半ではボランティアさんによる出し物が披露され、民舞やフラダンスなど、みなさん手拍子をしながら楽しんでおられました。

普段とは違う雰囲気や賑わい、患者様も良い気分転換になったようです。また、土曜日ということで、ご家族にもたくさん参加していただきました。今年はお子さんの姿も多く見受けられました。テーブルを一緒に囲んで、会話をしながらたこ焼やわらび餅をおいしそうに召し上がる姿を見て、こちらの心も温くなる思いでした。また、日々のリハビリを一緒に頑張っていきたいと感じた1日でした。





家族会が 開催されました

当院の外来リハビリテーション科は、理学療法士2名、作業療法士2名、言語聴覚士1名の計5名のセラピストが在籍しています。今回9月1日に高次脳機能障害患者様の家族様を対象に、「家族会」を実施する機会を得る事ができ、16名の患者・家族様に参加して頂きました。

会の内容としては、病気の症状や対応についてデモンストレーションを交えながら学習を行い、その後日々の生活状況など家族様同士で意見交換を行いました。交流の中では「自分達だけで抱え込むのは良くない。」など発言される方もおられました。また、終了後のアンケートでも「家族も本人も病気について理解することで、イライラしたり、悩むことも少なくなると思う。」などの意見を頂きました。

今回のようにあまり知られていない高次脳機能障害に対する理解や、意見交換を行うことで家族様の率直な意見を聞くことができ、私たち医療従事者にとっても貴重な経験となりました。今後の患者様・家族様との関わり方を見直すきっかけになったように思います。今回の会で多々改善点はありましたが、この経験を今後につけていけるようにしていきたいと思えます。



第13回高松協同病院

健康まつり

出あい ふれあい 支えあい
～心をつなぐまちづくり～

- 各種イベント：木太中学校ブラスバンド バンド演奏・ダンス・阿波踊り 等
- キッズコーナー：ヨーヨー・おたのしみくじ 他
- 健康チェックコーナー：骨密度測定も予定(ただし有料)
- 作品展コーナー
- バザーもあります

ポン菓子無料進呈

お楽しみ抽選会あります



日時/ **2015年11月1日(日) 10:30~14:30**

場所/ **高松協同病院 駐車場**

※雨天の場合、屋内駐車場で行います。

※お車で越越しの場合、できるだけ乗り合わせてお越しください。

主催/  **香川医療生活協同組合・高松協同病院**

TEL 812-5331

デイサービス協同

デイサービス協同では、レクリエーションとリハビリを兼ねて、カラオケを行っています。しかし、歌を聴くのは好きだけど、マイクを持って唄うとなると、恥ずかしいと利用者様より声を聞きました。

少しでも皆様の歌声が聞こえるようにと、唱歌やナツメロの歌詞プリントは、利用者様の手もとで見られるように、作業も手伝って頂きながらファイルを作成しました。

自分のペースで口ずさみ、ファイルをめくりながら「この曲好きやあ〜」「学生時代を入れて」「次は、憧れのハワイ航路にしよう」などと、利用者様から、リクエストや感想を聞かせて頂いています。



デイサービス木太協同

デイサービス木太協同では、今年もところてんを食べべに坂出の八十八（ヤソバ）に外出しました。

酢醤油以外にも、黒蜜や、黒蜜きな粉くずきりなど、たくさん種類があり、皆さん大変喜ばれていました。清水もあり、暑い夏の日を涼しく過ごせました。

デイサービス木太協同は、おかげさまで10月1日で開設6周年を迎えました。

皆様、ぜひ一度お越しください。

デイサービス木太協同 戸田



訪問診療について

高松協同病院では通院が困難な患者様に対して4名の医師で月12単位の訪問診療を行っています。内科的診療や訪問リハのための診療です。

また、ケアマネさんとの情報交換を強化し、2014年9月から居宅療養管理指導料を算定しています。

高齢化が進む中、地域包括ケアシステムの構築が求められています。患者様が住み慣れたところで自分らしい暮らしを継続できるように、皆様と連携をとりながらサポートしていきたいと思います。

私たちはまず、在宅の患者様を支えるために高松協同病院単独ではなく、地域の医療機関、介護事業所と連携し、法人全体で支える訪問診療を目指して準備を進めています。

〈2015年8月時点の実績〉

管理患者数	76名(内科58名、訪問リハ18名)
1ヶ月訪問件数	68件(内科66件、訪問リハ2件)
訪問場所	在宅39名、施設37名

2014年7月からの1年間での看取りは5件、
緊急往診は5件

